



—東地中海地域ニュース—

レバノン：ヒズボラの新政策綱領発表

(11月30日付現地報道)

11月30日、ナスラッター・ヒズボラ書記長はベイルート南部郊外でヒズボラの新政策綱領を発表するテレビ記者会見を行った（同政策綱領は、ヒズボラのウェブサイト <http://www.moqawama.org/index.php> にも掲載されている）。

1. 祖国

ヒズボラは、レバノンの国家、国民、領土、国家諸機関が1つであることを望んでおり、いかなる分割や連邦制をも拒否する。

2. 抵抗運動

レバノンはパレスチナ占領地との国境に位置しており、国家として、(アラブ)民族としての責任を果たさねばならない。イスラエルの脅威は継続しており、レバノンは祖国防衛に参加する民衆の抵抗運動と国家の安全を維持する国軍の結合に基づいた防衛形態を追及していかねばならない。

3. 国家および統治機構

レバノンの統治機構の近代化、進歩と改革を継続的に妨げている基本的な問題は宗派主義である。宗派主義を基礎とする制度は、選挙で選ばれた多数派が統治し、野党は反対するという真の民主主義の実現を強く妨げている。真の民主主義実現の基本的条件は、制度としての宗派主義の廃絶であり、ターイフ合意も高等国家委員会設置の必要性を定めている。統治機構が宗派主義にもとづく限り、国民的な対話を通じた宗派主義の廃絶を実現するためには、コンセンサスによる民主主義がレバノン政治の基本的ルールであり続けるであろう。

4. 対パレスチナ

パレスチナにおけるユダヤの国家的存在がパレスチナ人とレバノン人双方に同様の苦しみをもたらした。レバノンにおけるパレスチナ人の苦しみの現実に鑑みれば、レバノン当局は、パレスチナ難民との直接対話等を通じて、正常で強固な関係を構築し、責任を果たす必要がある。

5. 対アラブ諸国関係

抵抗運動には、アラブ諸国の立場を強化しイスラエルを弱体化させるために、本質的かつ

現実的な必要性がある。シリアはイスラエルとの闘争において卓越した立場にあり、地域における抵抗運動の活動を支持している。我々は、レバノンがシリアとの間で卓越した関係を構築する必要があると確信している。これは両国に共通する経済および安全保障上の政治的必要性というべきものである。過去数年間に見られた両国間のネガティブな状況が、速やかに正常化されるよう呼びかける。

#### 6. 対イスラム諸国関係

ヒズボラはイスラム諸国との間で全ての分野で協力が必要であることを確認する。イランはイスラム諸国の中でも中心的な国家であり、地域における抵抗運動の活動を支持している。アラブとイスラムにとっての最重要な中心的問題、即ちパレスチナ問題に対するイランのイスラム政策は明確かつ堅固である。